

楽しい動きのからくりおもちゃを作ろう

—A表現(2)—

～クランクの動きを利用して、一年生に喜んでもらえるおもちゃを作ろう～

広島市立東野小学校 斉藤 隆登

1 日時・場所 9月12日(月) 第5校時 図画工作室

2 学年・学級 第6学年1組(男子15名 女子15名)

3 題材について

- 児童は、造形活動にまじめに取り組み、一生懸命作品を作ろうとする。しかし、イメージが浮かばず取りかかりに時間がかかったり、工夫してやろうとするのだが、材料や用具がうまく使えず、思いどおりにできずに気持ちが続かなかつたりする児童がいる。また、自分の作品の自分らしさに自信が持てない児童もいる。
- これまで入学式、一年生を迎える会、遠足、給食、そうじ、休憩時間の遊びと一年生と関わってきているが、6年生となって半年がたち、少し関わりが薄くなりつつある。下級生を思いやり、手本となるように指導しているが十分ではないと感じることもある。「一年生を楽しい気持ちにさせよう。」「一年生をびっくりさせよう。」を合い言葉に、作品を作り、実際に作品と一緒に遊ぶことで、改めて下級生、特に一年生を思いやる心と最高学年の自覚と誇りを意識させたい。
- 本題材は、回転運動から往復運動に変わるクランクの仕組みを使い、用途のある、楽しい動きのおもちゃを作るものである。クランクの動きの特徴を生かし、一緒に遊ぶ相手に合わせたおもちゃを作る中で、材料や道具を選び、ものを構想していく力を育て、創造する喜びを持たせることができるものである。
- 指導にあたっては、初めて接するクランクの仕組みを理解させ、作品のイメージを持ったり、イメージを広げたりさせるために、参考作品の仕組みを見せ、試作のクランクの動きや多くの材料からつくりたいものを自力で考え、イメージ図の交流から得たことを自分の作品に生かさせたい。それは、ペンチの使い方や穴の明け方などの指導と併せて、材料の特徴を生かしていくことにもなると思う。また、イメージ図を書かせることは、作品作りの見通しを持たせ、完成への意欲付けになるであろう。さらに、できあがった作品で、しっかり遊ばせる中で、お互いの作品の独創性やおもしろさを認め合い、次への自信につなげたい。

4 題材の目標

クランクの動きからイメージしたつくりたいものを、見通しをもって、工夫して表し、よさやおもしろさを感じ取る。

5 題材の評価規準及び学習活動における具体の評価規準

| | ア関心・意欲・態度 | イ発想や構想の能力 | ウ創造的な技能 | エ鑑賞の能力 |
|--|-------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|---------------------------------------------------------|
| | クランクの動きに関心を持ち、楽しい作品をつくることに取り組もうとする。 | クランクの動きからつくりたいものを思いつき、つくりたいものの形や色、材料を考える。 | 仕組みの動きを試し、見通しを持って計画的に進めながら、自分のイメージに合うように工夫する。 | 自分や友人の作品を動かして遊び、工夫した点などを話し合い、よさやおもしろさを感じ取る。 |
| | ①クランクの仕組みを理解し、楽しい作品を工夫して作ろうとする。 | ①クランクの動きからイメージしたものを簡単な図に表す。 ②材料を選んだり、組み合わせたりして、つくりたいものの形や色を考えている。 | ①仕組みがスムーズに動くように工夫する。 ②材料の特徴を生かして、工夫して装飾する。 | ①友達の作品の意図や特徴をとらえ、よさやおもしろさを感じ取る。 ②自分の作品の自分らしいよさを感じ取る。 |

6 指導と評価の計画（全9時間＋1時間）

| 時間 | 学習活動 | 学習活動における具体的評価規準等 | | |
|------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|
| | | 観点・評価規準 評価方法 | 十分満足できると 判断される状況 | 努力を要する状況への手 だて |
| 第 一 次 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 | ・参考作品を見て、クランクの仕組みを理解し、楽しい作品づくりに興味を持つ。 | アー① 活動の様子を観察 | ・クランクの仕組みを理解しようと、熱心に観察している。 | ・参考作品を動かしながら仕組みをていねいに説明する。 |
| | ・クランクの仕組みを試作してみる。 | ウー① 活動の様子を観察・試作品 | ・クランクを試作し、動きを観察している。 | ・ペンチの使い方、クランクの位置と穴の位置や空け方などを確認させる。 |
| | ・クランクの動きからイメージしたつくりたいものを簡単な図に表し、交流する。 | イー① 活動の様子を観察・イメージ図 | ・クランクの動きを生かした、一年生を喜ばせる装飾を考えている。 | ・クランクのどの仕組みを使いたいのか確認させる。 |
| | ・クランクの仕組みを作る。 | ウー① 活動の様子を観察・クランク | ・仕組みがスムーズに動くように工夫して作っている。 | ・針金の曲げ方、穴の空け方、ストッパーなどを説明する。 ・方眼紙の上で大きさを確認させる。 |
| 第 二 次 ⑤ 6 7 8 | ・自分が考えたイメージをもとに、装飾する。 (本時・第5時) | イー② 活動の様子を観察・作品 ウー① 活動の様子を観察・作品 | ・必要な材料・用具を選び、材料の特徴を生かしながら工夫して作っている。 ・動きや大きさのバランスなどを考えながら作っている。 | ・どの材料・用具を使って作ろうとしているのか相談にのる。 |
| 第 三 次 9 ・ 10 | ・できた作品を友人と見せ合ったり、交換して動かしたりして工夫した点について話し合う。 ・一年生と交流する。 (学級会) | エー① 鑑賞カード エー② 鑑賞カード | ・友達の作品のよさやおもしろさを感じ取る。 ・自分の作品の自分らしさに喜びを感じる。 | ・鑑賞カードがなかなか書けない児童には、印象的な作品だけ書かせる。 ・どこがいいと思ったのか具体的に書かせる。 |

7 本時の目標

- 自分の思いが伝わるように、いろいろな材料を使って、表現を工夫する。

8 準備物

(指導者)アルミはり金、はり金、ペンチ、ラジオペンチ、ストロー、ホットボンド、ホース、竹ひご、用紙
(児童)箱、のり、ボンド、はさみ、カラーペン、絵の具、必要と思う材料

9 本時の展開 (5/9)

| 学習活動 | 教師の支援 | 評価規準・評価方法 |
|----------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 前時の学習を振り返り、活動の意味を確認する。 2 本時の学習内容をつかむ。 ○ 題材名やめあてを確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・イメージ図を見て、つくりたいものを確認する。 「一年生を楽しくさせるクランクを使ったおもちゃを作ろう」 | <ul style="list-style-type: none"> ○ つくりたいものにあわせて材料や用具を選び、材料の特徴を生かしながら工夫して作っている。 イー② (発) ウー① (創) 活動の様子の観察 つくりつつある作品 |
| 3 参考作品をもとに技法を確認する。 4 表現する。 ○ 表したいものを考えながら、自分なりに表し方を工夫する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 思いにあう表現方法を選べるように、様々な材料や用具を用意する。 ○ 材料や用具の取り扱い方がうまくいかない児童に対しては、方法の例を伝えたり、実際に試しながらアドバイスしたりする。 ○ 自信を持って活動できるように一人一人の題材に向かう姿勢やそれぞれの発想のよさをしっかり認め、共感していく。 | |
| 5 片付けをする。 6 振り返りカードを書く。 7 次時の活動について知る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの使った教室を責任をもって片付けるように言葉をかける。 ・本時の反省をもとに、次時の課題を確認させる。 ・引き続き心を込めて作っていく気持ちを大切にさせるようにする。 | |

